

## 岡山繊維産地協議会 人材確保のための産地PR検討会議

### 議事要旨

日時：令和 7 年 9 月 12 日 (金) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分

会場：倉敷ファッションセンター 1F ギャラリー (岡山県倉敷市児島駅前 1 丁目 46 番地)

### 議事要旨：

今回の会議では、児島地域の繊維産業における「人手不足解消のためのコミュニティづくり」について議論を行った。

#### 1. 人材確保とコミュニティのあり方

・現状と提案：「繊維で働きたい」人より「児島に住み、結果として繊維で働く」人を増やすべき。移住者や起業家が繋がるコミュニティを作り、街の魅力（人の魅力）を発信することで定着を図りたい。

・慎重論と課題：コミュニティづくりが即座に人手不足解消に繋がるかは懐疑的。継続には経営者の後押しや、単なる交流以上の「参加するメリット」が必要。また、「児島に住みたくない」という意識の解消など、道のりは遠いと指摘。

・新たな方向性：「作る」のではなく「集まる」仕組みが必要。テーマを絞ったブランディングや、非日常の空間（合宿形式など）で深く議論し、その内容を発信していく手法が提案された。

#### 2. 街の魅力発信と成功事例の活用

・観光・見せ方の工夫：モノづくりの現場を「驚きのある観光資源」として見せる視点が必要。他地域の事例（カジファクトリーパーク等）を参考に、産業芸術祭への参加や、限定公開による発信を検討。

・ストーリー性：単なる製品紹介ではなく、作り手のストーリーや「人」にフォーカスした見せ方が重要である。

#### 今後のアクション

・議論の深化：2時間程度の会議では限界があるため、場所を変えて集中議論する機会を設ける。

日時：令和 7 年 10 月 22 日 (水) 16 時 00 分 ~ 22 時 00 分

会場：積修館（香川県三豊市詫間町積 1802-1）

### 議事要旨：

議事録要約：人材確保および産地 PR 事業の推進について

人材確保という最重要課題に対し、「まずは産地を知ってもらう」ことを第一段階に掲げ、具体的な PR 施策と教育連携について合意された。

#### 1. 人材確保のための産地 PR 事業

現状の課題として、賃金や住環境といった各社の自助努力に加え、産地全体の「本質的な魅力向上」と「情報の届きにくさ」が挙げられた。

#### PR 手法の検討：

・雑誌（マガジン）：業界内の相互理解や資産性には価値があるが、若年層への訴求力や制作負担に懸念。

・音・デジタル：SNS は KPI 測定に優れるが、運用コストや技術面に課題。

・決定事項（イベント企画の実施）：話題性とエンターテインメント性を重視し、技術力を可視化する競技会「極 S グランプリ（仮称）」の開催を決定。

・内容：初年度は「縫製」をテーマに、速度・美しさ・正確性を競うタイムレースやトーナメントを実施。

・目的： 技能の可視化による職人の矜持向上、および観覧者へのリクルート活動を通じた人材確保。

・時期： 春の繊維祭に合わせた開催を目指す。

## 2.教育連携： 児島中学校での産業紹介学習

地元の中学生に対し、早期から繊維産業への関心を持ってもらうためのワークショップを実施する。

・日時： 12月12日（火）

・対象： 児島中学校 1年生

・形式： 企業6社によるブース形式（リベット打ち体験やクイズ等）。

・方針： 「働く」ことの前に「知る」ことに重点を置き、将来の地元採用に向けた動機付けを行う。

## 3.生産性向上と今後の方向性

・生産性の課題： 休日確保と労働環境改善のため、高いクオリティを維持しつつ生産効率を高め、「強い産地」であることを客観的指標で示す必要がある。

・今後の対応： 決定したイベントおよび教育企画の具体化に向け、アクションプランの策定を急ぐ。

【ポイント】 今回の会議では、従来の「求人票を出す」という受け身の姿勢から脱却し、「技術のエンタメ化（競技会）」と「早期の教育接点（中学校）」という2軸で、産地のファンを増やす攻めの姿勢が示された。

日時： 令和7年11月11日（火）13時00分～15時00分

会場： 倉敷ファッションセンター1F ギャラリー（岡山県倉敷市児島駅前1丁目46番地）

議事要旨：

議題： 繊維エンターテインメント・縫製競技の企画検討

今回の会議では、繊維産地のPRおよび若年層の興味喚起を目的とした「繊維に関するエンターテインメント（縫製競技大会）」の方向性について協議した。

### 1. 企画の方向性とコンセプト

・エンタメ性の追求： 従来の「真面目な技術評価」ではなく、ダンスバトルや『料理の鉄人』のような、素人が見ても熱狂できる演出（音楽、実況、解説、モニター活用）を重視する。

・競技形式： 「対決（バトル）」形式。プロの技術に敬意を払いつつ、一般参加も可能とし、他県からの参戦も視野に入れる。

・競技内容： 専門的すぎる技術（伊勢込み等）は避け、視覚的に分かりやすい「本縫い」や「運針」などをベースに、演出のプロの力を借りてエンタメ化する。

### 2. 開催の目的とターゲット

・表向きの目標： 繊維への興味喚起、産地への誇り・愛着の醸成。

・最終的な狙い： 児島地区への就職・移住、縫製従事者の増加。

・ターゲット： 参加者は繊維業界および一般、観客は広く一般層を想定。

### 3. 主な意見と検討事項

・評価基準の難しさ： アイテム（学生服、ジーンズ等）により「美しさ」の基準が異なるため、採点方法やルールの工夫が必要。

・リソースの課題： 資金および事務局の人的リソース、時間の不足が課題。

・ネーミング： 「S-1」「S-EN」「エスパト」などの案が出たが、実施内容確定後に改めて決定する。

### 4. 今後の予定

・11/18 全体会議： リーダーがプレゼン、佐藤氏がファシリテーションを担当し、今回の方向

性を発表。

・今後のスケジュール、予算、広報、および具体的な実施内容について出席者の意見を募る。

【ポイント】単なる技術コンテストではなく、「魅せるエンターテインメント」へと振り切ることで、若者や一般層の関心を惹きつけ、最終的に産地の雇用へ繋げるという方針が確認された。

日時：令和 7 年 11 月 18 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分

会場：倉敷ファッションセンター 1F ギャラリー（岡山県倉敷市児島駅前 1 丁目 46 番地）

議事要旨：

岡山繊維産地協議会 全体会議において、人材確保のための産地PR検討会議の検討状況について報告を行い、事業企画に対する意見を聞いた。

日時：令和 7 年 12 月 23 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分

会場：倉敷ファッションセンター 4F イベントホール（岡山県倉敷市児島駅前 1 丁目 46 番地）

議事要旨：

繊維エンターテインメント・縫製競技に関する検討

#### 1.検討の経緯と現状の決定事項

これまで合宿や全体会議を経て「繊維に関するエンターテインメント・縫製競技」の実施について協議を重ねてきた。本会議において改めて事業の実施を決定し、以下の方向性が示された。

・開催時期：当初案の 4 月開催は見送り、令和 8（2026）年度内に実施する。

・目的：「繊維に関わって、この地で暮らすことの魅力を広く伝える」こと。

・対象：ターゲットを絞り、学生（高校生・専門学校生）を軸に検討する。

#### 2.実施内容・演出に関するアイデア

単なる専門的な競技ではなく、一般層や若年層を惹きつける「見せ方」を重視する方針。

・演出：レッドブルのイベントのような高揚感、音楽、スポットライト、実況を取り入れ、中毒性のある動画として YouTube 等への展開も考慮する。

・内容：縫製に限らず、宿泊施設の一室をデコレーションするなど、各社の力を集結して競う形や、既存イベントとの紐付けを検討。

・啓蒙活動：有名講師による講演会や、行政・産地内の相互理解を深める場としての活用。

・予算：現在は予算ゼロだが、コンパクトな実施や手弁当での開始も視野に入れる。

#### 3.産地の人材ニーズに関する実態

「人材確保」という目的に対し、各社から現在のリアルな状況が共有された。

・求める人物像の変化：以前は意欲的・独立心旺盛な人材を求めていたが、現在は「コツコツと働く職人的な人材」を求める傾向にある。

・不足箇所の偏り：アパレル全体では分業により維持できているが、特に「川上（染色・生地・織機技術者）」や「ソフト（デザイン・マーケティング）」の人材不足が顕著。

・課題：織機があっても技術者がおらず稼働できない、工場が山間部にあり人が集まらないといった物理的・技術的課題が存在する。

#### 4.今後の運用と次回の予定

議論の停滞を防ぎ、産地内の連携を強化するための新たな運用が決まった。

・会議方法：欠席者による議論の逆戻りを防ぐため、今後はオンラインを併用し全員参加を目指す。

・相互理解の促進：メンバー間の事業理解を深めるため、会議を各社の持ち回りで開催する。

【重要】今回、4月の開催は見送られたが、事業自体は「実施」合意された。今後は「誰を呼ぶか（学生ターゲット）」と「産地の価値をどう伝えるか（演出・講演）」を、より具体的な予算規模に落とし込んでいくフェーズとなる。

日時：令和 8 年 1 月 29 日（木）10 時 00 分～12 時 00 分

会場：高田織物株式会社 会議室（岡山県倉敷市児島唐琴2丁目2-53）

議事要旨：

議題：繊維エンターテインメント・縫製競技大会の実施詳細について検討協議

これまでの検討状況を踏まえ、繊維産業のPRと人材確保を目的としたイベントの方向性について議論が行った。

#### 1. イベントのコンセプトと規模

- ・スモールスタートの推奨：最初から大規模にするのではなく、無理のない範囲で「濃度」を濃くし、継続性を重視する。
- ・場所の柔軟性：児島という場所に限定せず、井原など他地域との連携や、移住者との交流も視野に入れる。
- ・「楽しさ」と「カルチャー」の融合：繊維技術の競技（メインコンテンツ）に、音楽・食・文化などの要素を掛け合わせ、興味のない層（学生や一般層）も入りやすい雰囲気を作る。

#### 2. 目的とターゲット

- ・最終目的：産地の継承、人材の成長、および人材確保のための認知度向上。
- ・アプローチ：単なるリクルート活動ではなく、イベントを通じて情報を発信し、メディア露出を狙う。
- ・「コアなコミュニティ（サロンの集まり）」を深めつつ、それをいかに一般層へ広げていくかの距離感を重視。
- ・賃金や休日といった企業努力以外の部分（産地の魅力や楽しさ）を伝え、理想と現実のギャップを埋める。

#### 3. 具体的な企画案と工夫

- ・競技形式の導入：WBCやデザインアワードを例に、技術を競い合う「見える化」を行う。競い合う場を作ることで地元愛や教育効果を高める。
- ・交流の促進：発表会のような硬い形式ではなく、飲食ブースなどを設けて会話が弾む「遊び」の入口を用意する。

#### 4. 運営体制・スケジュール

- ・リーダーシップ：特定のリーダーが牽引するのではなく、全員の合意形成と「得意な人が得意なことをする」体制を目指す。
- ・開催時期案：11月頃。
- ・今後の進め方：月1～2回の会議（オンライン併用）を実施。
- ・次回、企画の詳細（理想像）を決定。
- ・再度、合宿による企画の詰めも検討。

日時：令和 8 年 2 月 17 日（火）15 時 00 分～17 時 30 分

会場：株式会社明石スクールユニフォームカンパニー（岡山県倉敷市児島田の口1丁目3-44）

議事要旨：

#### 1. 会議の目的

「繊維に関するエンターテインメント・縫製競技」の具体的な企画内容、ターゲット層、および実施体制の決定。

## 2. イベント企画案（通称：S-1 グランプリ）

専門的な技能五輪スタイルではなく、一般層が楽しめる「テレビチャンピオン」のようなエンタメ路線で合意した。

- ・メイン競技（ゴッドハンド等）：シャツの図柄縫い、子供向け雑貨づくりなど。
- ・エンタメ要素：糸通し、A品B品の目利き、マイクパフォーマンスやハイライトムービーの活用。
- ・演出・広報：巨大ミシンのオブジェ設置や、職人の日常・本気の姿を伝えるドキュメンタリー動画の上映。

## 3. ターゲットと目的

- ・ターゲット：若者から年配者まで幅広く設定。特に将来の担い手となる学生や子供、再雇用を期待できるシニア層。
- ・目的：単なる採用活動に留めず、「産地の継承」と「人材の底上げ」を目指す。職人の「本気の姿」を見せることで、業界への憧れや誇りを醸成する。

## 4. 実施に向けた課題と方針

- ・予算：現状は予算が乏しく、よるスモールスタートを検討。
- ・会場：産地の魅力を伝えるため児島地区を候補とする（市民交流センターや企業施設など）。
- ・事務局体制：KFC事務局のリソースが限界のため、企画・運営の役割は参加各社で分担する。
- ・結論：巨額投資を伴う大規模開催ではなく、まずは「第0回（試行）」として関係者や学生を招いて実施し、手応えを確認する。

日時：令和8年3月24日（火）10時00分～12時30分

会場：株式会社寅彦（岡山県倉敷市児島下の町1丁目11-32）

議事要旨：

本会議では、8月に予定のイベントの具体化に向け、「競技（競い合い）」から「交流・PR」へのシフトと、ターゲットの再定義について活発な議論が行われた。

### 1. 開催概要の決定事項

- ・日時：8月8日（土）※盆休みの初日
- ・会場：企業の会場（食堂での懇親会を含む）
- ・基本方針：予算がない中で、参画企業が協力して進める。

### 2. 主な論点と合意形成

競技性の見直し（「競う」から「褒める」へ）

当初案の「技能を競い合う大会」に対し、各社の現場社員から「社外と比較され、順位をつけられるのは嫌だ」という強い拒否反応があることが報告された。

- ・変更案：職人の技能を「見せる」ステージや、確実に「褒められる」仕組みを構築する。
- ・狙い：職人が持つ「承認欲求」や「交流欲求」を満たし、自社の価値を再認識する機会とする。

ターゲットの拡大と人材確保

単なる社内行事に留めず、外部を巻き込む方向性が示された。

- ・学生の巻き込み：インターンシップのきっかけ作りとして、学生を招待し、現場の雰囲気やキャリアパス（賃金や役職の道筋）を伝える場とする。
- ・ハローワーク・高齢者：若手だけでなく、技能を持つ高齢者層の採用も視野に入れた交流を検討。

キャリアと賃金の問題

縫製職のイメージ払拭のため、経営者側が「キャリアマップ」を明確に示し、評価に基づ

いた賃金体系（月給制への移行など）を正しく発信する必要性が共有された。

### 3.今後のアクション・方向性

・WEB マガジン化: 業界の閉鎖性を打破するため、本日の議論のような「経営者の本音」や各社の取り組みを情報発信し、文化として定着させる。

・繊維マイスターとの連携: 既存のイベントとジョイントし、相乗効果を狙う。

・交流の深化: 8月のイベントを「全ての課題解決」の場とするのではなく、まずは「企業間の壁を下げる足掛かり（試行）」と位置づけ、経営者・学生・一般を繋ぐ。

・視察の検討: 成功している他産地の事例を参考にしつつ、自分たちの身の丈に合った「交流の形」を模索する。

ポイント: 職人の心理的なハードル（比較されることへの抵抗）を考慮しつつ、いかに「格好良く」「開かれた」業界としてPRできるかが、8月のイベント成功の鍵となる見込み。

以上

お問い合わせ先

岡山県産業労働部産業振興課地域産業班

電話：086-226-7352 FAX：086-224-2165

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki43/>

一般社団法人倉敷ファッションセンター

電話：086-474-6800 FAX：086-474-6801

<https://www.k-fc.com/>